

令和5年度 石井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と健やかな体を持ち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために、次の「目指す学校像」、「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校
・分かる授業が展開され、一人一人が生き生きと活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校
・認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域と共に歩み、信頼される学校
・保護者や地域との連携を強化し、協力し合って児童を育成する学校

【目指す教職員像】

- (1) 前向きで 熱意がある教職員
・自らの使命を自覚し、意欲的に職務に励む教職員
- (2) 愛情をもって 子どもと向き合う教職員
・教育的愛情をもち、一人一人のよさや個性を大切にする教職員
- (3) 自己研鑽に努め 協働を大切にする教職員
・自ら進んで研修に励み、協力し合って職務を遂行する教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、さらに認め伸ばし、豊かな心の育成に努める。
- (2) 一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努める。
- (3) 気力や体力を育む教育活動の充実に努め、生涯に渡って健康で安全に生活できる能力の育成に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、サービスを厳守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるように努める。
- (5) 安心・安全に過ごすことのできる教育環境や落ち着いた生活できる潤いのある教育環境の整備に努める。
- (6) 家庭・地域社会との連携を密にし、地域の教育力を生かした信頼と協力を基盤とする「地域と共にある学校づくり」に努める。
- (7) 勤務時間を意識した働き方の推進及び校内の業務の適正化に努める。また、地域の教育資源の有効活用を図り、教職員が児童と向き合う時間の確保につなげる。
- (8) 陽東地区内の小中学校が連携し、義務教育9年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かでたくましく生きる力の育成を目指した教育活動の推進に努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- (2) 心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。
- (3) 学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実に目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。
- (4) 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- (5) 前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】「地域協議会」との連携のもと、地域の教育力を活用した地域と共に歩む学校づくりの推進 (1)体力と気力増進 (2)確かな学力の定着 (3)豊かな心の育成 (4)地域と共に歩む学校づくり ○(5)地域学校園活動の推進 (6)教職員の資質の向上 (7)危機管理・環境整備の充実
【学 習 指 導】「自ら考え表現できる言語能力の育成を目指して」 ～教科等の特質を生かす ICT 活用を通して～ ○(1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実 (4)家庭・地域との連携・協力
【児 童 生 徒 指 導】「豊かな心をもち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成」 ○(1)基本的生活習慣の育成 (2)規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3)望ましい集団づくり (4)個に応じた指導の充実 (5)家庭・地域・関係機関などとの連携
【健康(保健安全・食育)・体力】「自らの健康や体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成」 ～基礎体力の向上を目指した教科体育の充実、 保健指導及び食育との関連を踏まえた保健学習・学級活動の充実～ ○(1)望ましい食習慣の育成 (2)健康・体力の向上 (3)家庭・地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価								
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる」における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 児童にとって「できた」「分かった」が実感できる授業展開を工夫する。 ② 「石井っ子の学習」に基づいた基本的な学習態度の徹底を図り、学び方を身に付けた児童を育成する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業研究会・一人1授業などを積極的に行い、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>94.7</td><td>88.2</td><td></td><td>90.8</td></tr></table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が5.8ポイント上回った。昨年度に引き続き、学校園共通の「学習の約束」や「石井っ子の学習」を各教室に掲示することで、基本的な学習態度を意識させた。 【次年度の方針】 ・「めあて」から「振り返り」まで一貫した分かりやすい授業を展開し、進んで学習に取り組む態度を育てていきたい。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れながら、考えを伝え合い、児童の深い学びにつなげていきたい。 ・道徳科を中心とした学校課題における校内研修を通して、授業力の向上に努める。	教職員	保護者	地域住民	児童	94.7	88.2		90.8
教職員	保護者	地域住民	児童									
94.7	88.2		90.8									
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業だけでなく全ての教育活動において体験活動を重視し、思いやりの心を育む。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、人権教育の推進と人権週間の取組の充実を図る。 ③ 児童会活動や縦割り班活動を通して、互いを思いやる心を育む。	B	【達成状況】 <table><tr><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>100</td><td>93.2</td><td>96.2</td><td>88.2</td></tr></table> 数値指標は、教職員が15ポイント、児童が3.2ポイント上回った。縦割り班活動においては、感染症の状況に応じて、工夫しながら取り組んでおり、回数を重ねるごとにそれぞれの学年において成長が見られた。 【次年度の方針】 ・ほめほめカードの実施やいじめゼロ集会の実施などを通じて、着実な成果が出ている。コロナやインフルエンザの流行によりにこにこタイムが計画通り実施できなかったため、来年度以降更なる充実を目指し、思いやりの心を育てていきたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	93.2	96.2	88.2
教職員	保護者	地域住民	児童									
100	93.2	96.2	88.2									

	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 学習・生活面において自分の成長・達成感が味わえるような目標を設定し、目標達成に向けた支援を行う。 ② 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ③ 道徳の授業において、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。 ④ キャリアパスポートの活用の仕方について共通理解を図るとともに、便りなどで保護者に周知する。	【達成状況】 <table> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>94.7</td><td>81.5</td><td></td><td>89.2</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が9.7ポイント、児童が4.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学期の始まりや行事に向けての準備など、節目の際に目標を立てさせ、実践と振り返りを充実させることで成長や達成感が味わえるようにする。 ・個別に目標を設定し、個別支援での学習を通して達成感が味わえるようにしていく。 ・学校の活動を、学年便りや心ぽかぽか便りを通じて、今後も保護者に知らせる機会をとる。 ・ほめほめカードの実施時期を工夫し、回数を増やすなどの工夫を試みる。 ・今後も教科体育などの学習の中で、できたことを褒め合う場を積極的に作れるようにする。 ・学期の始まりや行事に向けての準備など、節目の際に目標を立てさせ、実践と振り返りを充実させることで成長や達成感が味わえるようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	94.7	81.5		89.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.7	81.5		89.2								
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康・安全に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、家庭科、給食、学校行事と関連を図った指導を行う。 ② 自分の身の安全を守る力を身に付けるため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 <table> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>97.4</td><td>92.3</td><td>100</td><td>92.8</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が12.4ポイント、保護者が7.3ポイント上回った。今年度は、交通安全教室がビデオ学習でなく、校庭での実施できて良かった。 【次年度の方針】 ・避難訓練や交通安全教室を通じて、児童の安全と危機管理に対する意識を高めていく。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.4	92.3	100	92.8
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.4	92.3	100	92.8								
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。 ② 道徳科の授業や特別活動において「感謝」「公共の精神」について考え、ボランティア活動への意欲を高める。 ③ 各学年で総合的な学習の時間の指導を充実させていく。	【達成状況】 <table> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>94.7</td><td></td><td></td><td>87.2</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が9.7ポイント、児童が2.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教科の学習や、学校行事とも関連させながら、宮・未来教育やボランティア活動を実施していくとともに、振り返りの活動を充実させて、協力することの大切さや自分の良さについて実感できるようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	94.7			87.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.7			87.2								

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、英語の授業や ALT と の交流の際に、英語を使って コミュニケーションしている」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 英語で伝え合うことの楽しさを 実感するために様々な体験的活 動を取り入れ、積極的にコミュニ ケーションを図ろうとする態度 を育成する。 ② ALT の活用による、児童とのコミ ュニケーションの場を積極的に 設定する。 ③ 外国語活動に関する校内研修や 授業を相互に見合う機会を充実 して指導力の向上を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>97.4</td><td></td><td></td><td>82.4</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が 12.4 ポイント上回 ったが、児童が 2.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・ALT との授業の打ち合わせを行い、きめ 細やかな指導ができるように努力する。 ・ペア活動や、グループ活動を増やしていく ことにより、積極的にコミュニケーション を取ろうとする態度を育む。 ・振り返り活動を充実させることにより、児 童が身に付いた力を実感できるようにす る。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.4			82.4
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.4			82.4								
	A 7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っ ている」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の 時間の授業や、市内や地域での校 外学習等において、児童が身近な 地域や宇都宮市のよさに気付く 指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文 化、伝統産業、特産物等について 理解を深められるよう努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>86.8</td><td>77.0</td><td></td><td>86.2</td></tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が 1.2 ポ イント上回った。学年に応じて、学校行事や 授業を通じて、宇都宮の良さを身近に感じ させることができた。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の学習で宇都宮について触れ ることで、関心を高めたい。 ・教科の特質に応じて、掲示物を作成した り、実物に触れたりさせるなどして宇都宮 のよさを伝えていく。 ・児童が宇都宮について学んだことを学年 だより等を活用して保護者に周知する。	教職員	保護者	地域住民	児童	86.8	77.0		86.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
86.8	77.0		86.2								
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を 学習に活用している」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 各教科、総合的な学習の時間にお いて、個人用パソコンを有効に活 用する。 ② ICT 機器の授業における活用法な ど、研修等を通して教員の指導力 の向上を図る。 ③ 授業内容に関連した教育図書の 整備充実や、学校図書館の環境整 備に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>97.4</td><td>78.1</td><td></td><td>84.6</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が 12.4 ポイント上回 ったが、児童が 0.4 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・ICT を活用したりリモート授業などができ るように環境を整備していく。 ・ICT を活用していることや場面を便り で家庭に伝える。 ・司書、司書教諭との連携を図ることで、学 校図書館の環境整備を進めていく。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.4	78.1		84.6
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.4	78.1		84.6								
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」に ついて、関心をもっている」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 総合的な学習の時間、家庭科、社 会科における環境教育を通して、 環境問題への関心を高め、実践で きる場を設定する。 ② アルミ缶回収などの委員会の取 組を奨励し、啓発を図る。 ③ ギャラリーの掲示コーナーを充 実し、SDGs の取組の啓発を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>71.1</td><td></td><td></td><td>87.2</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が 13.9 ポイント下回 ったが、児童は 2.2 ポイント上回った。児童 は様々な媒体から「持続可能な社会」への情 報を得ており、教職員がより一層の声掛け をしていくことで更なる達成の高まりが期 待できる。 【次年度の方針】 ・総合や家庭科、社会における環境教育を通 して、引き続き持続可能な社会への関心を 高める。 ・日々の生活の中で環境のために自分がで きることがないかを意識させていく。	教職員	保護者	地域住民	児童	71.1			87.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
71.1			87.2								

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用するとともに、必要に応じてケース会議等を行い、組織全体で指導にあたる。 ② ユニバーサルデザインのよさを意識した授業を展開し、適切な支援に努める。 ③ 通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ④ 児童指導委員会等を通して児童の共通理解を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 数値指標は、教職員の肯定的回答率が15ポイント上回った。児童理解を深め、必要に応じて会議を行い、一人一人に合った支援を模索した。引き続き児童一人一人にあった適切な支援を心がけていきたい。 【次年度の方針】 ・個別の指導計画の内容の更なる充実を図る。 ・通常学級においても必要に応じて個別の支援計画を作成し、実態に応じ、合理的な配慮を伴う指導を行う。 ・児童指導委員会や必要に応じたケース会議などを行い、校内支援体制を充実させ、組織的に対応する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100			
教職員	保護者	地域住民	児童								
100											
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、「いじめをしない、させない、許さない」心を醸成する指導の充実を図る。 ② いじめアンケート(年4回)、教育相談等による早期発見、早期対応に心掛けるとともに、全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 ③ 「いじめゼロ強調月間」や児童会の「いじめゼロ集会」などの場を適切にとらえ、随時積極的な指導を展開する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td>78.6</td><td>96.2</td><td>96.4</td></tr> </table> 数値指標は、教職員が15ポイント、児童が11.4ポイント上回った。強調月間や日々の指導で継続して心の醸成を図った、学校での取り組みを地域や保護者により分かりやすく発信していきたい。 【次年度の方針】 ・教育活動全体を通して人権感覚の醸成を図る。 ・学校HPや便り、懇談会時などに積極的にいじめ対策の取組についての情報を分かりやすく発信していき、家庭や地域と連携していじめが許されない行為であることを指導していく。 ・いじめ防止対策推進法や本校のいじめ防止基本方針についての研修を年度初めのうちに行う。 ・「いじめゼロ集会」などの行事と関連させ、いじめに関する単元を履修し、いじめを許さない心が醸成されるように指導をしていく。 ・道徳教育の様子を学年だよりで知らせるなど、人権週間やいじめゼロ週間などに対応して機会を設けていく。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	78.6	96.2	96.4
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	78.6	96.2	96.4								

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、居がいのある学級づくりに向けて認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不登校の兆候や傾向の児童に対し校内体制で支援を行うとともに、家庭と連携を図る。	【達成状況】 <table> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td>88.7</td><td></td><td>95.4</td></tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が10.4ポイント上回った。帰りの会等で児童が相互に認め合う場を設定したり、アンケートの結果を活用し、支援に生かしたりした。現在の数値に満足することなく、引き続き児童一人一人の理解に努めたい。 【次年度の方針】 ・学校行事など様々な場において児童が活躍できる場面やお互いに認め合う活動を継続していく。 ・日々の授業の中で一人一人が活躍できる場面を意図的に作るように努力する。 ・年2回の教育相談、年4回のいじめアンケート、個別の対応を充実させる。 ・学年会やケース会議、児童指導委員会、職員会議の情報交換会などを通じ、組織的に対応を行っていき、校内支援体制の充実を図る。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	88.7		95.4
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	88.7		95.4								
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、児童の思いを生かした、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。 ② 子供たちがいきいきと活動できるよう、帰りの会や学級活動の時間を活用して一人一人が認められる取り組みの充実に力を入れる。 ③ 外国人児童等について全校で共通理解を図り、個々の実態に応じた指導、必要な支援を組織的に行う。	【達成状況】 <table> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td>86.9</td><td>95.5</td><td>95.1</td></tr> </table> 数値指標は、保護者が1.9ポイント、児童が10.1ポイント上回った。集団活動の制限が緩和され児童会活動や学校行事が充実した。教育相談を活用し、児童の悩みに寄り添ったり、理解を深めたりすることができた。 【次年度の方針】 ・縦割り班活動や学校行事を通して異学年交流を充実させることで活気あふれる学校づくりにつなげる。 ・帰りの会や学級活動の時間を活用して一人一人が居がいのある学級となるよう努める。 ・学年会やケース会議、児童指導委員会、職員会議の情報交換会などを通じ、組織的に対応を行っていき、校内支援体制の充実を図る。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	86.9	95.5	95.1
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	86.9	95.5	95.1								
4- (1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 学校課題を中心とした全校体制による授業研究・一人1研究を通して、「分かる・できる授業」づくりを積極的に推進する。 ② 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。 ③ 朝の学習等を活用して基礎学力の向上を図る。	【達成状況】 <table> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td>87.5</td><td></td><td>96.1</td></tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答率が11.1ポイント上回った。一人1研究を行い、研究の成果を教職員が閲覧できるようにし、成果の共有を図ることで、研究についての情報交換を密に行うことができた。 【次年度の方針】 ・一人1研究での授業研究の成果を積極的に教員間で共有し、日々の授業に生かすことができるようにする。 ・課題の設定の工夫や、机間指導を充実させることにより、個に応じたきめ細やかな指導を充実させる。 ・朝の学習の時間を活用し、漢字や計算などの基礎を反復練習する時間を確保する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	87.5		96.1
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	87.5		96.1								

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 教職員がチームとしての意識を醸成するための関係づくりに努める。 ② 目標達成、課題解決に向けて学校全体の共通理解の下、連携・分担組織を活用して業務に取り組む。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 数値指標は、教職員の肯定的回答率が15ポイント上回り、昨年度より2.8ポイント上回った。若手研修の充実や学年でのサポート体制、支援委員会等を含めた協力体制がより強化された。 【次年度の方針】 ・全教職員で情報を共有し、課題や問題に対してチームで対応し、早期に問題解決できる体制を確立する。 ・相談しやすい職員室の雰囲気や環境づくりをし、問題を一人で抱え込まない工夫を継続する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100			
教職員	保護者	地域住民	児童								
100											
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 一人1スリム化の提案、行事の精選を行うと共に、事務職員の視点で業務改善に取り組みスリム化を図る。 ③ 職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティアの効果的な活用をより一層図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>86.8</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 数値指標は、教職員の肯定的回答率が6.8ポイント上回った。また、昨年度より14.6ポイント上回った。教職員で業務改善に向けたアイデアを出し合い、具体的に改善に取り組むと共に、教職員の意識の改革が図れた。 【次年度の方針】 ・外部人材（学校支援ボランティア等）の効果的な活用をより一層図る。 ・学生ボランティアによる学習支援や事務作業補助を積極的に活用する。 ・職員の業務の負担軽減に向けて、教職員一人一人のさらなる意識改革を目指す。	教職員	保護者	地域住民	児童	86.8			
教職員	保護者	地域住民	児童								
86.8											
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 学校園のテーマに基づき分科会・教科部会で重点化を図り、協働体制で取り組み、小中一貫教育を推進する。 ② 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。 ③ 「小中一貫教育 地域学校園」の取組を学校だよりや学校ホームページ等で地域、家庭に伝える。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>94.7</td><td>78.8</td><td>90.9</td><td>91.9</td></tr> </table> 数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.7ポイント上回ったが、保護者の肯定的回答率が6.2ポイント下回った。小中合同のあいさつ運動などの取組内容を学校だよりやHP等で発信したが、十分に周知されなかった。 【次年度の方針】 ・地域学校園内の小中学校と連携し、各部会・分科会で協働しながら小中一貫のカリキュラムの取組の充実を図るとともに、保護者や地域へ取組内容等を学校だよりやHP等を利用し発信していく。	教職員	保護者	地域住民	児童	94.7	78.8	90.9	91.9
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.7	78.8	90.9	91.9								
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 地域協議会等による地域人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。 ② 本校の特色ある教育活動である実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習の実施に向けて、地域協議会と連携し、計画的に地域の教育力を生かす取組を行う。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>100</td><td>86.3</td><td>96.3</td><td>89.4</td></tr> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答率が1.3ポイント上回った。地域住民の肯定的回答率が11.3ポイント上回った。今年度は、コロナ禍でできなかった活動も少しずつ出来るようになり、体験活動や出前授業等で地域に根差した教育活動や企業等と連携した活動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・地域の教育力や企業の出前授業等を十分に活用できるように、地域協議会や関係機関との連携をとりながら教育活動を推進する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	86.3	96.3	89.4
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	86.3	96.3	89.4								

6ー(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、各感染症予防対策など、時期に応じた保健指導を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100</td><td>90.2</td><td>92.3</td><td></td></tr></table> 数値指標は、教職員が15ポイント、保護者が5.2ポイント上回った。感染状況や気温の状況により、臨機応変に対応しているところもよかった。 【次年度の方針】 ・定期的な安全点検だけでなく、職員間の密な情報交換により、危険箇所の修繕を素早く実施する。 ・児童が避難訓練に真剣な態度で参加できるように指導する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	90.2	92.3	
	教職員	保護者		地域住民	児童							
100	90.2	92.3										
6ー(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① ICT支援員との連携を図りながら授業準備を計画的・組織的に行う。 ② 情報主任を中心にデジタル機器の活用がスムーズに行われるように、連絡・調整・研修等を計画的に行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>92.1</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 数値指標は、教職員の肯定的回答率が7.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・フレッシュ研修の実施や教育委員会主催のアプリ活用研修に積極的に参加し、ICT機器の積極的な活用を図る。 ・ICT機器の故障報告や代替品の対応など、情報主任とICT支援員の連携を継続していく。	教職員	保護者	地域住民	児童	92.1			
教職員	保護者	地域住民	児童									
92.1												
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「私は、時と場に応じたあいさつをしている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 児童会を中心とした、子供たちの自主的なあいさつ活動を奨励する。 ② 地域学校園、家庭や地域ぐるみのあいさつ運動を実施し、日常的なあいさつにつなげる。 ③ 家庭でもあいさつのよさが広がるように、あいさつ週間に「家庭用あいさつカード」を作成し、活用を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100</td><td>82.2</td><td>93.1</td><td>89.8</td></tr></table> 数値指標は、地域住民は8.1ポイント、児童が4.8ポイント上回った。日々の声掛けやあいさつ週間等、週間活動の成果といえる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動を継続して行っていく。 ・校門や昇降口でのあいさつ運動も含め、朝の登校指導などであいさつを奨励し、学校外でも進んであいさつができる児童を育てていきたい。 ・日常的なあいさつの推奨を行い、校外でのあいさつにつながるように、引き続きカードなどを活用し、家庭との連携を図っていく。 ・便りや、HP、メール等を活用し、家庭への啓発を行っていく。 ・地域学校園のあいさつ運動を行う。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	82.2	93.1	89.8
	教職員	保護者		地域住民	児童							
100	82.2	93.1	89.8									
B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図り、基本的な生活習慣育成の徹底を図る。 ② 生活当番組織を活用し、日常生活の指導の充実を図る。 ③ マナー週間を設定し、児童にきまりやマナーを意識させるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>97.4</td><td>91.9</td><td>96.3</td><td>91.5</td></tr></table> 数値指標は、教職員が12.4ポイント、児童が6.5ポイント上回った。「石井っ子の生活」という共通ルールがあることが結果につながっている。引き続き、「石井っ子の生活」を基に組織的な指導を心がけたい。 【次年度の方針】 ・「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図るとともに、家庭と連携しながら継続的に指導していく。 ・児童指導委員会などを活用し、情報を共有し、同一歩調で指導していく。 ・月ごとの指導内容を明確にし、共通理解を図りながら児童指導に取り組む。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.4	91.9	96.3	91.5	
教職員	保護者	地域住民	児童									
97.4	91.9	96.3	91.5									

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B 3 児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身につけている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、家庭でも、家庭学習や読書の習慣が身に付いている」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上 ⇒保護者 8 5 %以上	① 児童の実態に応じて、宿題や家庭学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。 ② 朝の読書や読み聞かせ、図書館司書によるブックトークなどで読書意欲を喚起し、家庭での読書につなげるよう努める。 ③ 家庭学習強化週間や読書週間を設定し、各種便りなどで保護者に家庭での習慣化について働きかける。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>92.1</td><td>68.3</td><td>100</td><td>78.2</td></tr></table> 数値指標は、保護者が 16.7 ポイント、児童が 6.8 ポイント下回った。宿題についてはよく取り組めている様子が見られる。さらに、読書や自主学習への啓発が必要である。 【次年度の方針】 ・学年だよりや懇談会等で家庭学習や家読の啓発を図る。 ・年度初めや、長期休業前などの指導を通して意識づけを図る。 ・保護者にも児童の取組みが伝わるように、家読などの実践を重ねていきたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	92.1	68.3	100	78.2
			教職員	保護者	地域住民	児童					
92.1	68.3	100	78.2								
B 4 児童は、進んで体力づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、休み時間に進んで体を動かしている」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上 ⇒保護者 7 5 %以上	① 体育等の授業において、自主的な体力づくりにつながるような学習内容を工夫する。 ② 各種検定やミニマムを活用し、休み時間に児童が進んで体力づくりに取り組む意欲がもてるよう努め、学年便りなどで保護者に周知する。 ③ 学級活動、保健学習、食育教育などを通して、体を動かすことの大切さに気付かせ、意欲付けにつなげる。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100</td><td>61.8</td><td>76.5</td><td>77.9</td></tr></table> 数値指標は、保護者が 13.2 ポイント、児童が 7.1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・週 1 回の共遊など、みんなで運動する機会を着実に設けていく必要が感じられる。 ・体育委員会を中心に、体を動かす運動遊びを紹介したり、機会を設けて参加できるようなイベントを企画したりできるようにする。 ・保健体育や学級活動での指導を通じて、体力づくりの大切さや心と健康との関連などをしっかりと指導していく必要がある。 ・気候に応じて（暑いときや雨天時の）、体育館の活用を検討をする。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	61.8	76.5	77.9
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	61.8	76.5	77.9								
B 5 学校は、より良い教育環境作りに向けて子供たちと共に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、楽しくやる気ができる環境を作ろうとしている」 における肯定的回答 ⇒児 童 8 5 %以上	① 様々な教育活動において、子供たちが生き生き活動し、活躍できる場の設定を行う。 ② 教室内外において、子供たちの活動や意欲を喚起する環境作りを子供たちと共に取り組む。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>100</td><td>84.8</td><td>100</td><td>92.1</td></tr></table> 児童の肯定的回答率が 7.1 ポイント上回った。各学級での学習内容の掲示や児童作品の展示、ギャラリーの掲示など、校内の掲示物を工夫し、子供たちの活動や意欲を喚起することができた。また、豊かな心を育むことを目指して、階段にふわふわ言葉を貼って、環境づくりをした。 【次年度の方針】 ・児童が主体的に取り組むことができるように、教室内外の掲示物を目的に応じて整え、学習や活動意欲を喚起する。 ・今年度の取組をもとにして、児童が主体的に活動するために、教職員が協力しながら活動を工夫する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100	84.8	100	92.1
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	84.8	100	92.1								

B 6 教職員は、児童にとって学校生活が楽しく、居がいのある学校づくりに努めている。	① 児童の実態をとらえ、一人一人が学習や様々な活動を通して居がいを感ぜられるよう授業や学校行事などを工夫するよう努める。 ② 児童が充実感や達成感を感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。	B	【達成状況】			
			教職員	保護者	地域住民	児童
【数値指標】 全体アンケート 「先生たちは、学校生活が楽しくなるよう工夫してくれている」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上			100	86.7	100	94.7
			数値指標は、保護者の肯定的回答率が1.7ポイント上回った。児童の肯定的回答率が9.7ポイント上回った。コロナ禍ではできなかった様々な行事を方法や内容を工夫して実施し、便りやHP等を通じて発信し、保護者への周知も図られた。 【次年度の方針】 ・授業や学校行事の後に振り返りを行い、自分の成長に気付くような活動を充実させることで、自己有用感を高め、達成感を実感させる。また、互いを認め合うほめほめカード等の継続や、にこにこタイムでの縦割り班活動の実施で居がいを感ぜる場を意図的に設定し、自分のよさを実感できる取組を進める。			

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果から、学校の教育活動全般にわたり、一定の肯定的評価を得られたものと捉える。 26項目中20項目で数値目標を達成した。 そのうち、A4「健康や安全」、A19「安全に配慮した環境づくり」、B2「きまりやマナーの遵守」については、児童、保護者、地域、教職員の全ての対象、もしくは評価を得た対象の全てから肯定的回答率90%程度以上の高い評価を得た。 本年度は、昨年度に引き続き、職員の肯定的回答率が上昇傾向にあり、チームとしての意識の高まりが見られた。しかし、ICTの導入や感染症対策等による教師の多忙感を解消するための働き方改革の推進は、喫緊の課題であるとする。 職員は、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、認め伸ばし、豊かな心の育成に努めてきた。また、一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努めてきた。 個々の項目については、児童、保護者、地域、教職員のうち、いずれかの対象の肯定的回答率が80%以下の項目は以下のとおりである。 A7「宇都宮市の良さの理解」、A8「ICT機器や図書等の活用」、A11「いじめに対する指導」、A17「小中一貫・地域学校園の取組」、B3「家庭における学習・読書習慣」、B4「進んで運動」の6項目となった。 「あいさつ」については、今年度も全ての対象からの肯定的評価が80%を上回っている。あいさつカードを活用し家庭との連携を図ったこと、ホームページや各種のたよりで呼びかけたことにより一定の効果が表れたのではないかと考えられる。今後、学校における指導については、学習規律や日常生活面の指導において、返事やあいさつの指導を一層徹底して行い、道徳の授業においては、あいさつの意義や意味を伝え、道徳性の向上を目指していきたい。また、保護者や地域関係者とも連携し、家庭や地域におけるあいさつ指導についても啓発活動を進めたい。 うつのみや学、情報活用能力、SDGs、夢を育む学習等、今日的な課題に対しての教育については、具体的な方策を講じ、教育実践をしてきたところである。特に昨年度からタブレット端末の導入が進み、ICTの活用により様々な成果が見られたが、目的に応じた他メディアとの組み合わせ等の研究が必要である。今後、学校の教育活動について、さらに創意工夫を凝らしながら取り組んでいくとともに、児童の活動の様子等については、各種の便りや学校HP等を効果的に活用し、家庭や地域に積極的に情報を発信していくことにより、理解が得られるようにしていきたい。 「いじめに対する指導」と「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、児童・教職員の評価はそれぞれ90%を超えているが、保護者の評価が80%を下回っていた。学校での取組について見直しを行うとともに、家庭への学校の取組の周知を心掛けたい。 進んで運動に取り組むことができるように、週一回の共遊の時間の着実な実施、体育委員会を中心とした体を動かす運動遊びの紹介、保健体育や学級活動の授業の充実、雨天時や猛暑時の休み時時間の体育館の弾力的活用を推進する。児童の運動に対する意識の変容や児童が運動を行いやすい環境整備に努めていきたい。 学年だよりや懇談会等で家庭学習や家読の家庭への啓発を図る。また、年度始めや長期休業前などの指導を通して児童への意識付けを図り、家庭における学習・読書習慣の形成に努めたい。

7 学校関係者評価

評価項目 B4「進んで体を動かしている」の先生方と地域・保護者・児童の達成状況の差が大きい。冷房が入った体育館の活用、一輪車利用の復活、委員会児童による外遊びの企画といった取組を工夫し、改善に努めていきたい。

教師は学校の宝である。その先生たちが疲れ切っているのではないか。先生たちの負担を減らすことで、子どもたちへの接し方もよくなり、先生方も元気になる。

水曜ボランティアは先生方の負担軽減に役立っているが、学校規模の割に人数が少ない。今後、活動の仕方や募集方法を工夫して、参加者数の拡大につなげていきたい。

石井小の子供たちは元気で良い子が多い。挨拶や交通マナーなど大人が見本となって子供たちに見せていきたい。

登下校時に地域の人たちが見守りをしてくれる地域とのつながりが素晴らしい。PTA 活動に対しても、多様な考えが出てきているが、多くの皆さんに参加していただけるように改善していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

地域学校園で取り組む挨拶運動などコロナで制限されていた活動を再開することができた。コロナ、インフルエンザの感染状況に配慮しながら、地域学習や体験学習の充実にも努めていきたい。

体力づくりに関して、児童が運動に取り組みやすい環境を整えるとともに、体力テストの結果を踏まえ、教科体育において本校の課題である走力の育成に取り組んでいきたい。

学習支援ボランティアや花壇ボランティアといった活動を充実させ、その活動内容を HP などで紹介してボランティア活動の拡充を図る。

スクールガードの見守り等により児童の安全がおおむね守られている。交通安全教室や日常の下校指導・登校指導を着実にを行い、交通安全に対する児童の意識の向上を図る。

教職員のチーム学校としての意識の改善が見られた。さらに、教職員が勤務時間を意識した働き方や業務の効率化を図れるように対策を講じていく。また、地域・保護者・教育委員会と連携を図りながら、働きやすい職場環境の醸成に努めていきたい。